

心の時代

ドジャーズの大谷選手はグランドに落ちているごみを拾うことはよく知られています。小学生に「大谷選手は何を拾っているのか」を尋ねてみました。「お菓子のゴミ?」「プラスチックごみ」等ごみの種類をあれこれ並べましたので、ごみの種類ではないことを伝えました。「ゴミを拾う意味」を考えてもらいました。そして「運を拾っている」ことを聞いたことがあるという発言が出ました。「どうして運を拾ったことになるのか?」を訊くと黙ってしまいました。文系の高三生にも授業中、同じ質問をしました。答えたのは一人だけでした。

最近どうも気になることがあります。「知っている」「知らない」で済ませてしまい、それは「どうして」ということが欠けているのです。考えない習慣が身についてしまっているように見受けられます。

どうして「ごみを拾うことが運を拾うことになるのか?」しばらくしても黙ったままで答えが出ませんでした。「情けは人の為ならず」です。利他の精神です。人のために動くとそれが回りまわって自分に返ってくるという話です。それが「運を拾うということなんだよ」と話をしました。小学生はそれを聞くと「へえ~そうなんだ」となって話が終わりになりました。教えている方も何らかの反応を待っていますので残念な気持ちになりました。

こういったことは何を意味しているのか。受け身になって考えない習慣がさらに進んだように感じました。スマフォは便利です。わからないことは調べればすぐ答えが出てきます。自分で考えずに済むことが多くなってきたのです。調べればすぐわかるということが日常化して来たことにつながっています。今後AIが日常化されるとAIに尋ねることが益々この傾向を進ませるのではないかと思われます。そして益々考えない習慣が日常化されるのではないでしょうか。スマフォやAIは使い方が求められます。そうでないとスマフォ、AI依存症になってきます。スマフォから手が離せない人の姿を電車や街灯でも見られます。そんな光景はみんな決していいものとは思ってはいませんが気が付くと自分の話になってしまんか。いつのまにかスマフォやAIに使われるようになるかもしれません。

ですから「なんで」「どうして」を日常生活の中で子供に持たせることが益々大切なことになります。そのためにも「どうしてだと思う?」という問い合わせが大事になります。私も意識をして授業中に話をするようにしています。日常生活でも意識して「どうしてだろう」というと問い合わせを心掛けみてはいかがでしょうか。その際は必ず出た意見を否定せず受け止めることが大切です。「なるほどそういう考え方もあるね」と答えることを意識してみください。その上で「こういった考え方もあるけれどどうだろう」と訊いてみることが大切です。

最近、日本史の授業をしています。「なぜ」その出来事は起こったのかを因果関係を通して話をして、生徒に理解をしてもらった後で、彼らに前で白板のカッコ問題の説明をしてもらうようにしています。そんな中で納得がいかない場合「どうして○○はこうしたのですか?」という質問がようやく出てくるようになりました。質問に対して「君はどう思う?」ということを必ず訊き、意見を聞いた後に話をするようにしています。まだ黙っている生徒もいますが、大学でのゼミはその姿勢がないと成り立たないことを伝えています。

何より自分で考えて、判断をして、行動するのが大人ですからスマフォ、AIの意見に従うだけなら自分のない人間になってしまいます。「考えること」は人間の特権です。自分の価値観、自分の考え、自己存在は自分で作り上げなければなりません。「人間は考える葦である」というパスカルの言葉が浮かんできました。

